

北朝鮮当局による拉致問題への理解を深めよう！

～12月10日から12月16日は「北朝鮮人権侵害問題啓発週間」です～

人権同和教育課

約50年の月日が経とうとしています

1970年代から80年代にかけて、北朝鮮による日本人拉致が多発しました。現在、17名が政府によって拉致被害者として認定されています。鹿児島県関係は、市川修一さんと増元み子さんの2名です。

平成14年(2002)年9月の第1回日朝首脳会談において、北朝鮮は日本人を拉致していたことを認め、謝罪しました。その後、5名の被害者は、24年ぶりの帰国を果たすことができました。しかし、残りの拉致被害者については、不明のままです。拉致事件発生から、約50年の月日が経とうとしています。



【啓発リーフレット】

拉致の可能性を排除できない879名

政府が認定した17名の被害者以外にも、北朝鮮による拉致の可能性のある、いわゆる特定失踪者が879名(令和元(2019)年9月6日時点修正)おり、国内外からの情報収集や捜査・調査を続けています。鹿児島県警は、特定失踪者879名の中の23名について、情報提供を呼びかけています。

拉致被害者家族の現在の声

拉致被害者家族は、拉致問題への国民の関心や意識が薄まっているのではという不安を抱えています。

- ・「娘は、日本に見捨てられたと思っているのではないか。」
- ・「どんなに時間がかかっても、救出をやり通してほしい。」
- ・「状況は混沌としている。拉致問題が置き去りにならないよう、様々な立場等を超えてベクトルを合わせて取り組んでほしい。」

自分のこととしてとらえるために

行政職員研修の取組

現在、内閣官房拉致問題対策本部は、学校教育における拉致問題に係る授業の在り方や授業展開について研修会を実施し、都道府県の取組の更なる充実を求めています。本県でも5月に県内の市町村教委の指導主事等を対象に、人権教育指導者育成研修会を実施し、各学校で拉致問題への関心を高める授業が展開されるよう取り組んでいます。



【人権教育指導者育成研修会】

学校の授業での取組

映像教材のアニメ「めぐみ」の視聴をとおして、拉致問題への関心を高め、自分のこととして受け止めることができるよう工夫しています。



【アニメめぐみ】

学習する上で大切にしたいこと

- ① 児童生徒の発達の段階に即した学習となるよう特に留意する。
- ② 拉致問題に関する理解を深めると同時に、北朝鮮や北朝鮮の人々への偏見や差別を生まないように十分配慮する。
- ③ 視聴覚教材を視聴したり、資料を読んだりしただけ、講演会を実施しただけとならないように、事前・事後の学習などを含め、児童生徒の受け止めをみとりながら行うようにする。

北朝鮮人権侵害問題啓発週間

12月10日から16日は、北朝鮮当局による人権侵害問題について、国民の関心と認識を深めることを目的とする人権週間です。



【ブルーリボン】